

ライブラリアン主体の医療・健康情報サイト 『hlib.jp』の構築と運用

小嶋 智美¹⁾，ふじた まさえ²⁾

¹⁾Independent Librarian ， ²⁾株式会社カーリル

【目的】

ライブラリアン主体の医療・健康情報サイト『hlib.jp』（以下，hlib）を立ち上げた。hlib では，情報サービスの専門職であるライブラリアンの「選書」「文献検索」の能力を活用したリソースの収集を行う。構築と運用の目的を2点挙げる。1. hlib を「一般向けの医療・健康情報のデータベース」として育てること。2. 活動の単位を「組織」ではなく「人」とし，「ライブラリアンによる主体的な表現の場」として機能させること。

【収集対象】

いわゆる文献情報のほか，医学研究者や医療専門職による一般向けサイト，出版社による図書リスト，患者会資料や医療機関の広報誌など，医学系データベースや総合的な文献情報ツールではフォローの難しいものを主な対象とする。また，ライブラリアンによる編集リソースも収録対象とする。具体的なデータ例は，発表時に紹介する。

【運用方法】

hlib のサイト構築には，WordPress を用いた。検索機能の向上を目的に，Unitrad API を導入した。収集したリソースには，シソーラス用語やフリーキーワードなどの主題情報や臨床カテゴリ等を付与する。現在は，hlib の試験運用に賛同したライブラリアン有志数名がデータの登録を行っている。

【今後の目標】

中期的な目標を3点挙げる。1. 収録リソースの充実，2. データ登録者などの増員（趣旨に賛同し，主体的な活動のできるライブラリアンであれば誰でも参加可能），3. hlib および既存の医学・医療系のツールを用いた一般向けのヘルスリテラシー向上支援活動。長期的な目標は，息の長い運用である。

【さいごに：口演担当者より】

図書館，特に公共図書館における医療・健康情報サービスは，EBM（Evidence-Based Medicine，科学的根拠に基づく医療）やSDM（Shared-Decision Making，協働による意思決定）など医学・医療の基本姿勢の理解と，各図書館の特性や地域的な課題などが融合した形で実践されています。EBM や SDM を包含するのはPCC（Person-Centered Care，「人」あるいは「人と人との関係性」を中心に据えたケア）です。ライブラリアンひとりひとりが Person-Centered なサービスを実践するための一助として hlib が役立ち，成長していけたらと考えています。